

1年間全体を通した学校運営協議会についての評価（有識者評価）①

＜評価の観点＞

組織運営等の状況、授業等の状況、指導・管理の状況、家庭・地域との連携協力の状況、学校運営協議会全体について。

○ 5つの学校評価目標について、今までの実践や取り組みを踏まえ、継続的な課題を目標に設定し、実践が行われた。保護者評価は、昨年度に比べ、より高い肯定的な評価になったことは、学校への期待度と信頼感の表れと評価出来る。一方で、回収率の低下は、大きな課題である。次年度に向け、PTA組織とも連携し、回収率向上に努めてもらいたい。

○教員評価として、全ての項目で達成及び中達成ということで、一定の水準の達成と考えられる。一方で、以前より継続的に取組まれている内容も多く含まれ、「今年度新たな取組としての評価」としては、曖昧さを感じさせる。

○とりわけ「1教育課程・学習指導」「3進路指導・支援」について、「児童・生徒の学び」「本人参加」の視点が薄かったことは、残念であった。学習指導要領や人権教育の視点からも、「主体性」「自分らしさ」という視点での目標設定及び評価の観点に期待する。

○「働き方改革」については、急務である。民間企業は、多様な業務形態の選択と賃上げ等によって、積極的に取組んでいる。学校現場は、子どもへの直接指導・支援業務のため、マンパワーの総体が必要であり、公務員の性格上、民間的な視点の取組には、困難さがある。学校現場ならではの、取組の工夫や新たな発想での対応が求められよう。「まず出来ることからの改革」は、管理職によるリーダーシップが重要であり、組織による業務の見直しとともに、先生方一人ひとりの、不斷な「仕事の向き合い方や処理の仕方の工夫・努力」が必要であろう。このあたりを年度当初から具体的な経営目標として位置づけ、取り組んでほしい。

○学校運営協議会では、積極的な討議が行われた。学校の課題解決の場、さらには、学校への応援団として、次年度も位置づけ、積極的にこの会を活用してほしい。上記の「働き方改革」について、今後、この会議で積極的に検討し、関係機関や地域・保護者への発信を通して、学校職員の働き方改善に貢献できればと考えている。

1年間全体を通した学校運営協議会についての評価（有識者評価）②

＜評価の観点＞

組織運営等の状況、授業等の状況、指導・管理の状況、家庭・地域との連携協力の状況、学校運営協議会全体について。

学校設置から 50 年が経過し、施設の老朽化や狭隘化が認められるものの、学校見学から廊下、共有スペース、教室が整理・整頓され、清掃も行き届き教育活動に有効に活用されていた。その中で、児童生徒が熱心に学習している様子を見学することができた。

学校評価報告書（実施結果）では、1 年間の目標とされた項目の 7 割が達成されていた。保護者、地域と連携・協力しながら毎日の実践を積み重ねた教職員の努力の成果である。中でも、「地域等との協働」に関する取組は大きく進歩しており、今後も継続を期待したい。中達成とされた教育課程の系統性、児童生徒の実態やニーズに応じた教材開発、進路学習教材のデータ化、働き方改革プロジェクト会議は、いずれにも難しいテーマではあるが、中達成となった理由を分析し、令和 7 年度は達成可能な目標を設定するとともに、方策の具体化を図り達成をめざしてほしい。

学校評価に関する保護者アンケートでは、ほぼすべての項目で 90% を超える高い評価が得られた。保護者が、学校や教育活動に対して高い満足感と信頼感をもっていると認められる。唯一、「地域等との協働活動」に関して肯定的評価が約 75% であったが、令和 5 年度から 10 ポイント以上改善していた。地域等との協働活動はコロナ後、取組みは進められているものの、その内容が保護者に伝わりにくくなっていることもあり、発信方法の更なる工夫が必要となっている。一方で、保護者アンケートの回収率が約 56% であったことから、保護者に対して保護者アンケートの意味づけを図ったり、教育活動への参画をさらに促したりしながらできるだけ多くの保護者の声が届けられることを期待する。

本年度、学校運営協議会主催の進路学習会を実践したことは大いに評価できる。進路学習会の実施にあたっては、地域の小・中学校に在籍する児童生徒の保護者も対象とされた。小・中学校に在籍する児童生徒の保護者は、進路に関する情報を得られにくい現状がある。今後も、小・中学校で特別支援教育を必要とする児童生徒とその保護者を含めて進路学習・キャリア教育について学んだり協議したりする機会が確保されることを期待する。

最後に、令和 6 年度の最後の学校運営協議会で、校長から令和 7 年度の新入学児童生徒が 100 名を超えると話された。現在、校舎の老朽化、狭隘化が進む中で精一杯の工夫で日々の教育活動が行われているが、それも限界となっている。特別支援学校に就学や進学する児童生徒とその保護者は、落ち着いた静かな環境で一人ひとりの特性に合わせた教育活動を希望している。それらの願いに応え充実した教育が行われるように、学びやすい教育環境の整備が喫緊の課題であることが学校運営協議会で強く共有された。